

R7.10 工事完成図作成要領 新旧対照表

現行						改定						備 考
留意事項	2	(3)		表-1 図面表示の標準	・「タイトルと下線」―「表示方法」 「平面図」の下線: <u>一重線</u> ・「タイトルと下線」―「摘要」 — ・「詳細図表示」―「摘要」 —	留意事項	2	(3)		表-1 図面表示の標準	・「タイトルと下線」―「表示方法」 「平面図」の下線: <u>二本線</u> ・「タイトルと下線」―「摘要」 <u>下線は二本線とすること。</u> ・「詳細図表示」―「摘要」 <u>下線は一本線とすること。</u>	修正
平面図	7	(3)	サ		新旧連絡か所、連絡か所、栓止めか所、不断水T字取付か所、不断水挿入仕切弁取付か所、不断水挿入管路断水器取付か所、離脱防止金具取付か所、弁室築造、管防護コンクリート等がある場合、引き出し線で記入(例:「○○○か所(1)」、「○○○取付か所(5)150 CP」、「○○○弁室築造(2)」、「管防護コンクリート設置か所(3)」)する。	平面図	7	(3)	サ		新旧連絡か所、連絡か所、栓止めか所、不断水T字管取付か所、不断水挿入仕切弁取付か所、不断水挿入管路断水器取付か所、離脱防止金具取付か所、弁室築造、管防護コンクリート等がある場合、引き出し線で記入(例:「○○○か所(1)」、「○○○取付か所(5)150 CP」、「○○○弁室築造(2)」、「管防護コンクリート設置か所(3)」)する。 <u>また、不断水T字管の付属バルブを仕切弁として使用する場合は、「付属バルブを仕切弁として使用」と記入し、付属バルブの位置にソフトシール仕切弁の配管記号を記入する。</u>	追加
平面図	7	(3)			—	平面図	7	(3)	タ		新設管の標準土被りを。次表を例に記入する。ただし、縦断面を作成するものは除く。 口径 標準土被り 備考 75mm 0.70m 配水管 100mm 0.70m 配水管 100mm 0.70m 排水管	追加
縦断面図	8	(4)	ウ		既設物との交差部の間隔が判明するか所は、寸法を記入する。	縦断面図	8	(4)	ウ		各種地下埋設物等との交差部の間隔が判明するか所は、寸法を記入する。	修正
断面図	9	(3)	イ		断面図の間隔と位置は、 <u>工事記録写真撮影要領(撮影頻度)に基づき</u> 、40mまたは測点毎を標準とするが、 <u>変化点がある場合は追加して記入</u> とする。						断面図の間隔と位置は、40mまたは測点毎 <u>並びに</u> 変化点(<u>詳細図を作成する位置を除く</u>)とする。	
詳細図					—	詳細図	10	(1)			詳細図は、維持管理上必要と判断される以下の箇所について作成する。	修正 (その他→作成基準)
詳細図					—	詳細図	10	(1)	ア		平面詳細図と断面詳細図を作成する箇所 新旧管連絡か所、連絡か所及び配管状況が複雑な箇所等	修正 (その他→作成基準)
詳細図					—	詳細図	10	(1)	イ		平面詳細図のみを作成する箇所 前後の測点と見通しが異なる箇所	修正 (その他→作成基準)
詳細図					—	詳細図	10	(1)	ウ		断面詳細図のみを作成する箇所 標準土被り以外の箇所 ただし、標準土被り以外の区間が長い場合は、平面図に引き出し線と寸法線で区間長及び土被り(例:下越し区間50m 土被り0.90m)を記入し、断面詳細図を省略することができる。	修正 (その他→作成基準)
詳細図					—	詳細図	10	(4)	ウ		近接する埋設物の名称及び口径並びに位置が判明している場合は離隔寸法を記入する。	追加
詳細図	10	(3)	ウ		平面詳細図と断面詳細図がある場合、平面詳細図に全ての異形管等を、断面詳細図がある場合にはT字管、消火栓及び仕切弁等を引き出し線で管種、名称、口径及び規格・寸法を記入し、平面詳細図と対比できるように作成する。	詳細図	10	(4)	エ		平面詳細図と断面詳細図は、全ての使用材料を配管記号で記入し、平面詳細図に引き出し線で管種、名称、口径及び規格・寸法 を記入する。 <u>ただし、平面詳細図、断面詳細図どちらかのみ</u> の場合は、配管記号及び使用材料の記入を省略することができる。	修正
詳細図	10	(4)	ア		詳細図は、道路交差点等配管状況が複雑な箇所について作成する。また、伏せ越しか所等は断面詳細図も作成する。						—	削除 (作成基準に記入)

現行						改定						備 考
詳細図	10	(4)	イ		離脱防止金具及びライナ使用か所は、配管記号を記入する。	詳細図					—	削除
詳細図	10	(4)	ウ		曲管を使用したとき、標準断面の管天高を基準とし、それより下部の上げ下げの曲管をVD、上部の上げ下げの管をVU、ひねり部はVHの記号で平面詳細図及び断面詳細図に引き出し線で使用を明記する。	詳細図					—	削除
詳細図	10	(4)	エ		新旧連絡か所及び連絡か所における既設管との接続位置(分岐接続の場合はT字管)の寸法を記入する。	詳細図	10	(3)	オ		新旧連絡か所及び連絡か所における既設管との接続位置(分岐接続の場合はT字管(不断水T字管含む。))の寸法を記入する。	見直し
詳細図						詳細図	10	(3)	カ		既設管と連絡する場合は、引き出し線で既設管の名称、口径、管種及び布設年度を記入する。	追加
詳細図	10	(4)	オ		栓止めか所がある場合、その位置の寸法を記入する。	詳細図					—	削除(弁栓類位置寸法図に記入)
配管施工図	11	(3)	イ		配管状況が確認できるよう全ての使用材料を記入し、甲・乙切管、異形管類、弁栓類等については引出し線により管種、名称、口径及び規格・寸法を記入する。	配管施工図	11	(3)	イ		配管状況が確認できるよう全ての使用材料を配管記号で記入し、甲・乙切管、異形管類、弁栓類等については引出し線により管種、名称、口径及び規格・寸法並びに標準土被りの管天高を基準とし、それより下部の上げ下げの曲管をVD、上部の上げ下げの管をVU、ひねり部はVHの記号を記入する。	修正
弁栓類位置寸法図・許可図	12	(4)			—	弁栓類位置寸法図・許可図	12	(4)			弁栓類(栓止め含む。)の位置を以下のとおり計測する。	追加(栓止め位置を弁栓類位置寸法図に記入)
弁栓類位置寸法図・許可図	12	(4)	ア		L型側溝又はブロック類(ガッター等)が設置されている場合は、図－1現地実測例のとおりに官民境界からの距離とする。	弁栓類位置寸法図・許可図	12	(4)	ア		原則として、官民境界からの距離を測定する。	見直し
弁栓類位置寸法図・許可図	12	(5)	ア		口径、管種、布設年度等は、原則として道路外に記入する。	弁栓類位置寸法図・許可図	12	(5)	ア		新設管の口径、管種、布設年度等を引き出し線と寸法線で記入する。	見直し
弁栓類位置寸法図・許可図	12	(5)	ウ		新旧管連絡か所及び連絡か所には図－2図面表示例のとおりに矢印を記入する。						—	削除
弁栓類位置寸法図・許可図	12	(5)		図面表示		弁栓類位置寸法図・許可図	12	(5)		記入事項		修正
凡例	15	(2)		記入項目	新設管、撤去管、放棄管、仕切弁・消火栓、離脱防止金具、ライナー使用か所、他企業埋設物等を表－2配管記号により記入する。	凡例	15	(2)		記入項目	新設管、撤去管、放棄管、仕切弁・消火栓、離脱防止金具、ライナー使用か所、他企業埋設物等を表－3配管記号により記入する。	修正
参考資料:工事完成図作成例				工事概要	—	参考資料:工事完成図作成例				工事概要	6～8.「管撤去工事」をまとめて延長を記入	見直し
参考資料:工事完成図作成例	その他、作成要領改定に沿った見直し。											